

国語 第4学年 きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：風船による挑戦の経過から、自分が紹介したい出来事を選び、なぜそこに興味をもったかを叙述を基に説明する。全ての出来事を同じ重さで紹介せず、紹介の中心と、その根拠となる経過を分ける。C(1)オ・C(1)カの学習として、興味をもった出来事の紹介文。紹介の中心、支える経過、自分の感想を区別する。読み手の質問を受けて必要な説明を補う。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、文章を読んで捉えた出来事を基に感想や考えをもち、友達との交流で興味をもつところの違いに気付いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：興味をもった出来事の紹介文を残す。紹介の中心、支える経過、自分の感想を区別する。読み手の質問を受けて必要な説明を補う。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：科学的な成功だけを紹介し、なぜ興味をもったかを述べない。経過を長く並べて中心が見えなくなる。これについて、出来事のメモを並べ、紹介の中心を囲む。中心を理解するのに必要な前後のメモだけを残す。語句が難しいときは図示して本文の説明に戻り、本文にない装置の仕組みを付け足さない。〔知識及び技能〕(2)アとC(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「いちばん紹介したい出来事はどれですか。そのよさを伝えるために、前後のどんな出来事も説明する必要がありますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：興味をもった出来事の紹介文は紙に記録できる。紹介の中心、支える経過、自分の感想を区別する。読み手の質問を受けて必要な説明を補う。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：実験映像を示した方が理解が早いのではないか。

返し：映像が本文のどの説明に対応するかを確認める場合には使える。ただしC(1)オ・カの評価を映像への感想で置き換えず、紹介理由の根拠を文章に戻して確かめる。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「いちばん紹介したい出来事はどれですか。そのよさを伝えるために、前後のどんな出来事も説明する必要がありますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

